マナビエ
MANABIE

記述の設計図　第3部 組み立てる

U05　問いを読む

問いを読む（聞かれていること・条件・傍線部の分解）

ベーシック

対象：小学5年・偏差値55〜60

1. 要点（ルール）
2. 例題　物語文「朝のトランペット」
3. 練習1・練習2（解答らんつき）
4. 解答と採点表

要点　問いを読むのルール

R05-1　設問に2本の線

設問は、最後の「～しなさい」まで読む。聞かれていることに、まっすぐな線。条件（「〇〇」という言葉を使って・～字以内・～がわかるように など）に、波線。記述のまちがいの1位は「聞かれたことに答えていない」、2位は「条件を守っていない」。この2本の線でふせぐ。

R05-2　聞かれていることで、答えの形が決まる

「どういうことか」→「～ということ。」／「なぜか」→「～から。」／「どんな気持ちか」→「～気持ち。」／「どんな人・様子か」→「～人。」「～様子。」。形は、書く前に決めておく。

R05-3　条件は、書く前と書いたあとに数える

波線の数＝確かめることの数。書き終えたら、条件を一つずつ✓する。「～がわかるように」という条件は、そのまま答えに入れる中身になる。字数を1字でもこえると、採点されないことが多い。「～字以上」もある。

R05-4　――線部をふくむ一文を読む

――線部だけを見ない。一文のはじめから「。」まで読む。すぐ前・すぐあとの文も読む。指示語（この・その・あの）は、ふつう前を指す。前で見つからなければ、あとも読んで確かめる。

R05-5　――線部を「／」で分けて、言いかえる

「だれが／どうして／どうなった」くらいのかたまりで分ける（分けすぎない）。わかりにくい部分は、①指示語→指している中身 ②たとえ→ふつうの言葉 ③同じ言葉・似た言葉を本文のほかの所でさがす、で言いかえる。

R05-6　抜けている「だれが・だれに・何を」をおぎなう

会話や短い――線部では、主語や「〇〇を」「〇〇に」がよく抜けている。本文からおぎなって読む。答えでは「ぼく」「おれ」ではなく名前で書く。

ルールの番号（R05-〇）は、講座全体の通し番号です。動画・Webページ・このPDFで同じ番号を使っています。

例題　物語文「朝のトランペット」

① ユウトの家のとなりには、高校生のサキさんが住んでいる。サキさんは毎朝六時になると、庭でトランペットの練習を始める。

② 四年生のころ、ユウトはその音がいやでたまらなかった。日曜日くらいは、ゆっくりねていたかったからだ。「また始まった」と、ふとんを頭からかぶったこともある。

③ ある冬の朝、新聞を取りに出たユウトは、庭のサキさんを見かけた。はく息は白く、楽器をにぎる指は赤くなっている。それでもサキさんは、同じところを何度も何度もふきなおしていた。雨の日にはのき下で練習していることも、ユウトはそのとき初めて知った。

④ それからユウトは、自分も毎朝、なわとびの練習をするようになった。五年生の冬の大会で、二重とびを百回とぶのが目標だ。トランペットの音が聞こえてくると、ユウトも庭に出て、なわを回しはじめた。

⑤ 大会の朝、ユウトはいつもより早く目がさめた。うまくとべなかったらどうしよう。考えれば考えるほど、おなかのあたりが重くなった。

⑥ そのとき、窓の外から、いつものトランペットの音が聞こえてきた。今日も、同じところをくり返している。ユウトは、ふとんの中で耳をすました。毎朝、この音といっしょに、なわを回してきたのだ。

⑦ ユウトは、えいっと起き上がった。あの音が、今日はぼくの背中をおしてくれたのだと思った。

問　――線部「あの音が、今日はぼくの背中をおしてくれた」とありますが、どういうことですか。「練習」という言葉を使って、五十字以内で説明しなさい。

解き方

1. **手順1　設問に2本の線**
   聞かれていること「どういうことですか」にまっすぐな線。条件「『練習』という言葉を使って」「五十字以内」に波線（R05-1）。どういうことか＝言いかえの問題なので、「～ということ。」で終える（R05-2）。
2. **手順2　一文を読む**
   ――線部をふくむ一文「あの音が、今日はぼくの背中をおしてくれたのだと思った」と、すぐ前の「えいっと起き上がった」を読む。その音が、不安でふとんの中にいたユウトを起き上がらせたことがわかる（R05-4）。
3. **手順3　分ける**
   「あの音が／今日は／ぼくの背中をおしてくれた」の3つに分ける（R05-5）。
4. **手順4　言いかえる**
   「あの音」は指示語。前をさがすと、サキさんが毎朝練習するトランペットの音（①③⑥）。「背中をおす」はたとえで、はげます・勇気づけるという意味（⑥⑦）。「今日は」は、大会の朝で不安だったとき（⑤）。

5. **手順5　おぎなう・条件を✓**
「ぼく」はユウトのこと。答えでは名前で書く（R05-6）。「練習」が入ったか、五十字以内か、「～ということ。」で終わったかを一つずつ確かめる（R05-3）。

設問に2本の線

——線部「あの音が、今日はぼくの背中をおしてくれた」とありますが、どういうことですか。「練習」という言葉を使って、五十字以内で説明しなさい。

まっすぐな線＝聞かれていること（問いの核）／波線＝条件

分解表（設問と——線部を分ける）

分けた部分	本文での中身	根拠	答えに
聞かれていること	どういうことか → 言いかえて「～ということ。」で終える	設問	◎ 文の形
条件	「練習」という言葉を使う／五十字以内	設問	◎ 書いたら✓
あの音が（指示語）	サキさんが毎朝練習するトランペットの音	①③⑥	◎ 入れる
今日は	大会の朝、うまくとべるか不安だったユウトを	⑤	○ 入れる
背中をおしてくれた（たとえ）	はげまし、勇気づけてくれた	⑥⑦	◎ 入れる
前の気持ち	四年生のころは、その音がいやだった	②	△「今日は」とくらべるための話

模範解答

模範解答　49字／50字以内

サキさんが毎朝練習するトランペットの音が、大会の朝に不安だったユウトを勇気づけてくれたということ。

採点表

採点表（要素ごとの配点）	点
「背中をおす」の言いかえ：はげました・勇気づけた	5点
「あの音」の中身：サキさんが毎朝練習するトランペットの音	3点
「今日は」の中身：大会の朝、不安だったユウト	1点
条件（「練習」を使う・五十字以内）を守り、「～ということ。」で終えている	1点
合計	**10点**

減点の型(こう書くと)	何点になる？ なぜ？
「あの音が、ぼくの背中をおしてくれたということ。」	――線部を写しただけ。指示語もたとえも言いかえていないので、内容は0点。
「トランペットの音が、ユウトを勇気づけたということ。」	「練習」を使っていない(条件ちがい)。だれが毎朝ふいている音かもぬけている。5点。
「サキさんの練習の音に、はげまされたから。」	「～から。」は理由の答え方。聞かれているのは「どういうことか」。最後の1点が入らない。
「サキさんの練習の音がうるさかったということ。」	「今日は」を読んでいない。四年生のころの気持ち(②)で、反対の内容。0点。
五十一字以上	字数オーバー。採点されないことが多い(0点)。

練習1　説明文「においの道」

① 地面を歩くアリの行列を見たことがあるだろうか。何十ぴきものアリが一列になって、巣とえさの間を行ったり来たりしている。だれかが道を教えているわけでもないのに、ときには、何メートルもはなれたえさ場まで、行列がとぎれずに続いていることもある。なぜアリは、まよわずに同じ道を進めるのだろう。

② ひみつは、においにある。えさを見つけたアリは、巣へもどるとちゅう、おなかの先を地面にこすりつけながら歩く。こうして地面に、においのしるしを少しずつ残していくのだ。このにおいは、人間の鼻ではまったく感じられない。

③ 巣にいる仲間のアリは、触角でこのにおいをかぎつけると、においのつづく方へ歩きだす。そしてえさにたどりつくと、自分もまた、においを残しながら巣へもどる。えさがたくさんあるあいだは、においはどんどんこくなり、行列も太くなっていく。

④ えさがなくなると、もうにおいをつけるアリはいない。においは少しずつうすれて、行列もやがて消えてしまう。アリの行列は、においでできた、目に見えない道なのである。

問　――線部「アリの行列は、においでできた、目に見えない道なのである」とありますが、どういうことですか。においがどのようにして道になるのかがわかるように、四十字以上五十字以内で説明しなさい。

① 要素表を書こう

分けた部分（聞かれていること・条件・――線部）	中身	根拠の段落

② 答えを書こう

10　20　30　40　50

50字以内（1マスに1字。句読点も1字）

練習2　物語文「夕方のベンチ」

① 日曜日の夕方、リクは妹のハナと、公園のベンチにすわっていた。二人とも、さっきから一言も話していない。

② 昼すぎ、ハナはリクのサッカーボールを、だまって持ち出した。去年の誕生日に、おじいちゃんが買ってくれた大切なボールだ。ハナは公園でそれをけって遊んでいるうちに、フェンスの向こうの川へ落としてしまった。ボールは流れていき、もどってこなかった。

③ 家に帰ってきたハナから話を聞いたとたん、リクは「なんで勝手に持っていったんだよ。」と大声でどなった。ハナは泣きながら自分の部屋にかけこみ、夕方まで出てこなかった。

④ しばらくして、リクはハナを公園にさそった。ボールのことは、もうおこっていなかった。それよりも、どなったときのハナの顔が、頭からはなれなかったのだ。

⑤ ベンチで、ハナが小さな声で言った。「お兄ちゃん、ボール、ごめんなさい。」

⑥ リクは、足もとの小石を一つけった。それから、前を向いたまま言った。

⑦ 「おれも、まだ言ってなかった。……どなって、ごめん。」

⑧ ハナは顔を上げて、リクの横顔を見た。リクの耳は、夕日のせいか、少し赤くなっていた。

問　――線部「おれも、まだ言ってなかった」とありますが、どういうことですか。だれが、だれに、何を言っていなかったのかがわかるように、四十字以内で説明しなさい。

① 要素表を書こう

分けた部分（聞かれていること・条件・――線部）	中身	根拠の段落

② 答えを書こう

									10										20
									30										40

40字以内（1マスに1字。句読点も1字）

解答と採点表

練習1　説明文「においの道」

解き方

1. **手順1　設問に2本の線**
   聞かれていること「どういうことですか」。条件は2つ。「においがどのようにして道になるのかがわかるように」と「四十字以上五十字以内」。1つ目の条件は、そのまま答えに入れる中身になる（R05-3）。四十字に足りなくても点が引かれる。
2. **手順2　分ける**
   「アリの行列は／においでできた／目に見えない道なのである」に分ける（R05-5）。
3. **手順3　同じ言葉をさがす**
   「道」と同じ言葉・似た言葉を本文でさがす。①段落「同じ道を進める」、③段落「においのつづく方へ歩きだす」。においをつけるのは②段落「えさを見つけたアリ」。
4. **手順4　言いかえる**
   「目に見えない」＝においは人間の鼻では感じられない（②）。「においでできた道」＝えさを見つけたアリが残したにおいを、仲間がたどって行き来する（②③）。
5. **手順5　条件を✓**
   においが道になるしくみが入ったか、四十字以上五十字以内か、「～ということ。」で終わったか。

設問に2本の線

> ——線部「アリの行列は、においでできた、目に見えない道なのである」とありますが、どういうことですか。においがどのようにして道になるのかがわかるように、四十字以上五十字以内で説明しなさい。

まっすぐな線＝聞かれていること（問いの核）／波線＝条件

分解表（設問と——線部を分ける）

分けた部分	本文での中身	根拠	答えに
条件1（中身）	においがどのようにして道になるのか	設問	◎ 答えの中心
においでできた	えさを見つけたアリが、巣へもどるとちゅうに地面ににおいを残す	②	◎ 入れる
道	仲間がそのにおいをたどって、巣とえさの間を行き来する	③	◎ 入れる
目に見えない	においは目に見えない（人間の鼻では感じられない）	②	○ 字数があれば
あとの話	えさがなくなると行列が消える	④	△ 入れなくてよい

模範解答

模範解答　49字／50字以内

えさを見つけたアリが残したにおいを、仲間がたどって行き来し、巣とえさを結ぶ行列ができるということ。

採点表

採点表(要素ごとの配点)	点
仲間がにおいをたどって行き来するので、行列(道)ができる	5点
えさを見つけたアリが、地面ににおいを残す	3点
巣とえさを結ぶ(どこからどこへの道か)	1点
四十字以上五十字以内で、「～ということ。」で終えている	1点
合計	**10点**

減点の型(こう書くと)	何点になる？ なぜ？
「アリの行列は、においの道だということ。」	――線部のくり返し。においが道になるしくみ(条件)が書いていない。0点。
「アリはにおいで道がわかるということ。」(十八字)	中身が足りず、四十字にも届かない。5点中2点、形の1点も入らない。
「アリが目で道を見て進むということ。」	本文と反対(道は目に見えない)。0点。

練習2　物語文「夕方のベンチ」

解き方

1. **手順1　設問に2本の線**
   聞かれていること「どういうことですか」。条件「だれが、だれに、何を言っていなかったのかがわかるように」「四十字以内」。条件の「だれが・だれに・何を」が、そのまま答えの要素になる(R05-3)。
2. **手順2　一文と前後を読む**
   ――線部のすぐ前で、ハナが「ごめんなさい」とあやまっている。すぐあとには「どなって、ごめん」とある(R05-4)。
3. **手順3　「も」に注目**
   「おれも」の「も」は、ハナと同じように、ということ。ハナはあやまった。リクも、あやまる言葉をまだ言っていなかった。
4. **手順4　おぎなう**
   だれが＝リク(「おれ」)。だれに＝ハナに。何を＝どなったことへの「ごめん」(③段落でどなった)。答えでは「おれ」ではなく「リク」と書く(R05-6)。

設問に2本の線

——線部「おれも、まだ言ってなかった」とありますが、どういうことですか。だれが、だれに、何を言っていなかったのかがわかるように、四十字以内で説明しなさい。

まっすぐな線＝聞かれていること（問いの核）／波線＝条件

分解表（設問と——線部を分ける）

分けた部分	本文での中身	根拠	答えに
条件（中身）	だれが・だれに・何を	設問	◎ 3つとも入れる
おれ（だれが）	リク	③⑦	◎ 入れる
（だれに）	ハナに	⑤⑦	◎ 入れる
言ってなかった（何を）	どなってしまったことを、あやまる言葉（ごめん）	③⑦	◎ 入れる
も	ハナがあやまったのと同じように	⑤	○ 字数があれば

模範解答

模範解答　40字／40字以内

リクも、ハナをどなってしまったことを、まだハナにあやまっていなかったということ。

採点表

採点表（要素ごとの配点）	点
何を：どなったことをあやまっていなかった（ごめんと言っていなかった）	5点
だれが・だれに：リクが、ハナに	3点
「も」：ハナと同じように（リクも）	1点
四十字以内で、「～ということ。」で終えている	1点
合計	**10点**

減点の型（こう書くと）	何点になる？ なぜ？
「おれも、まだ言っていなかったということ。」	——線部のくり返し。だれが・だれに・何を（条件）が無い。0点。
「リクが、ボールのことをおこっていると言っていなかったということ。」	④段落と食いちがう（もうおこっていなかった）。0点。
「リクがハナにごめんと言っていなかったということ。」	何のごめんか（どなったこと）がぬけている。5点中3点。

マナビエ
MANABIE

記述の設計図　U05 問いを読む（ベーシック）

© MANABIE　無断転載・複製・改変・再配布を禁じます